



# 池島魂



教育目標 「愛顔でより良い未来に向かって努力する子供の育成」 文責：校長

## 😊 人権学習 を進めています 😊

自分の気持ちを自分の置かれている立場や状況に応じて、丁寧な言葉遣いや前向きな表情や態度で的確に表現することは、学校や地域など社会でよりよく生きていくために欠かせないスキルです。そのためには、家族や友だち、先生方、地域の方々など自分が出会う人たちの考えや気持ちを創造する力、共感する力が不可欠です。

池島小中学校では、1学期の「人権ひまわり」の取組から「人権週間（12/4～12/10）」かけて、また普段の学校生活の中での態度や行動、言葉遣いの指導をベースに、人権学習を行っています。

その一環として、児童が絵本の読み聞かせを行いました。絵本の内容や自分の考えを伝えようと努力していました。

### 小3 絵本読み聞かせ 「フレデリック」

### 小5 絵本読み聞かせ 「わたしのせいじゃない」



### ☆小5 絵本読み聞かせ「わたしのせいじゃない」の自分の考えと行動☆

私はこの本を読んで、その本の中に「私はまったく悪くない」なぜなら「見ていなかったから」という言葉に「それは見て見ぬふりじゃないのか、見かけたらとめることができたのではないか」と思いました。

みんなたたいたからといって自分もたたいていい理由にはならない、それこそ止めることができたのではと思います。

「いじめ」を見て見ぬふりをするのは、いじめている側と同類だと思います。ですから、私は悪いのか悪くないのかをしっかり頭の中で整理して、見て見ぬふりは絶対にやめようと思います。

また、昨日（11/21）は教頭先生が全校道徳をしてくださいました。道徳資料「おはようおじさん」から、気持ちのよいあいさつからはじまり、拡大向上したふるさとへの愛情について考えました。

明るく元気なあいさつを続け、町のために愛情を注ぎ続けた「あいさつおじさん」、町では「あいさつ三徳」という記念碑<sup>きねんひ</sup>を立て、その教えと感謝の気持ちを忘れないようにしてるそうです。おじさんにとっては、その町に住む人たちそのものがふるさと、愛情を注いでいける場所だったのだと感じました。「あいさつ」からはじまる心の交流、心の交流から育まれるふるさとへの愛着、たいへん感激しました！

### 「あいさつ三徳」

- 1 「気持ちのよいあいさつ」は、相手の心を明るくする
- 2 「気持ちのよいあいさつ」をする人は、誰からも好かれる
- 3 「気持ちのよいあいさつ」をすれば、自分の気持ちも豊かになる

全校集会で確認しましたが、「気持ちのよいあいさつ」とは、

- 1 「目」：相手と目をあわせている
- 2 「頭」：しっかり頭をさげている
- 3 「顔」：笑顔である
- 4 「口」：明るい声を出している
- 5 「背すじをまっすぐ」：している
- 6 「自分から先に」：あいさつしている

あなたは  
実践していますか？  
実践（やること）が  
大事です！

あいさつ <sup>しよさ</sup> 挨拶や所作、感謝 <sup>かんしゃ</sup> や勤勉 <sup>きんべん</sup> さ等、自分も周りの人たちも大切にしたい思いやりのある紳士的な言動ができているかは、将来社会をよりよく生きる力に、人間力に直結しています。

人権教育や将来を見据えた生きる力を育む子どもたちの健全育成の観点からも、学校でも家庭でも地域でも意識して指導・支援・実践していきたいものです。



